

令和5年4月17日

情報学部在学生の皆様へ

情報学部長 久野良木 健
情報学部長代理 井口 信和

生成系AI(ChatGPT等)に関する留意事項

はじめに

ChatGPTやStable Diffusionに代表される生成系AIは生産性や創造性を高めるツールとして着目されています。これからの時代は、AIへの質問力(プロンプトエンジニアリング)を含め、生成系AIを上手に使いこなす能力が求められます。一方、レポート課題を生成系AIに丸投げし、出力結果を鵜呑みしてそのまま提出するなど、技術者倫理に反する使い方の問題も指摘されています。

情報学部としては、生成系AIを自らの能力を高めるために利用することを奨励します。ただし、技術者倫理に基づいた生成系AIの正しい利用をお願いします。この技術者倫理については、1年生後期の「技術と倫理(情報)」で解説します。

利用の際の注意事項について

生成系AIは、回答する分野に得意不得意があり、得意な分野については専門家レベルの高度な回答をする一方で、不得意な分野についてはHallucination(幻覚)と呼ばれる全くでたらめな内容を回答することも知られています。このでたらめな内容は文面としては極めて自然で説得力があるため、利用者側に十分な知識がないと真偽の判定も困難で、正しい利用どころか、嘘の内容に容易に騙されてしまいます。

また生成系AIの多くは使用された入出力をAIのさらなる学習に利用しているため情報漏洩につながる危険があります。質問内容の学習への利用を許可しない(オプトアウトする)方法も紹介されていますが、いずれにせよ、個人情報や機密情報等の機微な内容の入力を厳に慎むようにして下さい。

レポートにおける利用について

専門科目の講義におけるレポート課題について、生成系AIからの出力結果のみでレポートを構成することは禁止します。自ら作成した文章を校正したり、アイデアを練る過程でChatGPT等の生成系AIを用いることは構いません。

レポート本文に部分的に生成系AIの出力結果を使用する場合は、使用箇所を引用として明記し、生成系AIへの入出力や使用条件も記してください。その上で、生成系AIによる回答内容を鵜呑みにせず、必ず出力結果を検証・考察してください。また、あとで照会することがありますので、レポート課題への生成系AIの使用過程(入出力、使用条件等)は、手元に保存しておいてください。

実習科目における利用について

実習科目においては、課題提出のための利用を原則禁じます。生成系AIに自身の代わりに実習課題を解いてもらっても、実習としての学習効果が得られず、ご自身の成長の機会を失うこととなります。正しく生成系AIを利用できる人材となるためにも、生成系AIを用いない場合の自身の力を養うことは極めて重要です。ただし、内容が高度な課題や、効率的な生成系AIの利用方法を習得することを目的とした課題などにおいては、個別に認める場合があります。生成系AIの使用を認める場合は、都度、皆さんに周知します。

あなたはChatGPTを使いこなす人ですか？

それとも、ChatGPTに取って代わられてしまう人ですか？